

# いたやなぎ 町議会だより

平成29年  
9月定例会

**第15号**  
2017. 11. 10

主な内容

- 6人が一般質問 P2～7
- 決算特別委員会審査他 P8～9
- 視察リポート他 P10～11

おらほぢの自慢!  
～でっただイ子ヨウ～

下常海橋 八幡宮

# 町民の声を町政に

## 第7回定例会一般質問

第7回板柳町議会定例会が9月4日から12日までの日程で開催されました。9月6日に行われた「一般質問」に、6名の議員が登壇し質問しました。

一般質問は、議員の日常活動と町民の声や議員自身の考え方をもとに町長や教育長などの方針を問うものです。板柳町議会では、1人60分の制限時間があります。議会だよりは、スペースの都合上、一人1ページ相当の文章量までとし、質問と答弁が要約してあります。臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしています。

### 新規就農者増加・養成



久米田 亥佐雄

#### 問

板柳町の主な産業であるリンゴ栽培について、新規就農者を増やし、養成するための施策としてどのように考えているか。また、特に過疎化、少子高齢化を防ぐためにも高校新卒者へ働きかけて、地元でリンゴ栽培に従事してもらうことが重要であると考えているが、そのような働きかけは行われているのか。

#### 答

(成田町長)

現在町では、国や県の事業を活用しながら農業次世代人材育成投資資金を初め、農業ビジネススクール事業や地域おこし協力隊事業、林檎まるかじり塾など、さまざまな事業を行いながら新規就農対策に取り組んでいる。また、町の新規就農者の支援策として住宅賃

#### 問

貸借料補助事業や研修資金補助事業、農地賃借料補助事業の実施や、県りんご協会主催のりんご産業基幹青年養成事業やりんご剪定士養成事業、あるいはりんご病害虫マスタ―養成事業を通して、当町の若手農業者の人材育成に取り組んでいる。高校新卒者に対する就農への働きかけについては、現在行っていないが、今後町としてどういうことができるのか、県の教育委員会など関係機関と協議しながら対応したいと考えている。

これは、私の一つの考えであるが、町にリンゴ課を新設し、高卒者を養成する。初年度は、1町歩ほどのリンゴ園を購入し、スปีードスプレーヤー1台、乗用の草刈り機1台、軽トラック1台、刈り払い機1台のほか、人数分のはさみや、のこなどをそろえる。また、高卒者は男性3人、女性2人を採用し、生産したリンゴを出荷し、給与に充てる。農閑期にはリンゴに関する授業や剪定の指導を行う。2年目にはさらに1町歩から2町歩ふやし、

#### 答

(成田町長)

高卒者、男性2人、女性3人を採用し、乗用草刈り機1台、刈り払い機1台、フォークリフト1台をふやす。この年から作業の合間を見て人手不足の農家へ作業員として貸し出しも行う。これは、高卒者の流出を防ぎ、人手不足の農家を助けることとともに、リンゴの町に、プロの技術者を育て、町の発展になると考えるが、町長の考えは。



農業ビジネススクールの様子  
新規就農者を増やそう!!



#### ○要望

町で無理なら三セクのような形でも考えてほしい。買う、いろいろな採用者の人数も具体的に提示いただきたい。久米田議員のリンゴ産業に対する思いというのは強く感じている。ただ、行政がどこまでやれるかといえば、いろいろ問題があると思う。幸い、町にはりんごワークがあるので、そういった中で、検討していきたいと考えている。



葛西 幸男

高校生の模擬議会

問 公職選挙法などの改正により、昨年から18歳に選挙権が引き下げられ、参議院選挙では若者の政治への姿勢が話題となった。当町においても若者に政治や議員について理解を深めてもらうことや、若者の考えを町政に反映させるためにも高校生による模擬議会を開催する必要があると思うが、町長の考えは。

(成田町長)

答 若者に政治や議員活動に理解を持ってもらうことや、町政に対してさまざまな角度からご提言をいただく場として、高校生による模擬議会は一つの有効な手段であると考えている。過去にも実施したことがあるが、今後においても高校生の模擬議会が開催されるこ

とになれば、町としては積極的に対応してまいりたいと考えている。

問 昨年の参議院選挙から、18歳に選挙権が引き下げられたが、その状況は。

答 (葛西選挙管理委員長)

新たに選挙権を得られた方々の投票率は、18歳の方が41%、19歳の方が35%で県平均とほぼ同様である。

消防団員の中型免許取得に対する助成

問 当町の消防団は、少子高齢化により加入者が減少している。道路交通法改正により、普通自動車運転免許では運転できない消防車両もあることから、消防団に勧誘してもこのことが問題になると考えられる。

よって、中型免許取得が必要な分団に対し、免許取得費用の助成をする必要があると思うが、町長の考えは。

答 (成田町長)

これまでの普通自動車免許、中型自動車免許、大型自動車免許に加え、新たに準中型自動車免許が導入され、新制度での普通自動車免許では、これまでとは

違い、車両総重量、最大積載量の上限が引き下げられている。このことから、新制度で取得した普通自動車免許では、現在各分団に配備されている17台の消防自乗車のうち4台に関しては、車両総重量の関係から運転できない車両となり、準中型自動車免許が必要となる。ただ、現在の団員に関しては旧制度での免許取得者がほとんどであり、直ちに配備車両の運転に支障を来す状況にはなっていない。助成については、準中型自動車免許に関して、今後団員加入の際、所有する免許の種類別等の状況を見きわめながら対応を考えたい。

りんご灯まつり

問 今年もりんご灯まつりが行われたが、例年より見物客が少ないように感じた。日程を変えることで来場者の増加を見込めるものと考えてるので、祭りを8月8日から10日、花火大会を14日にしてほしいと考えるが、町長の考えは。

答 (成田町長)

町民の声や関係者の意

見を聞きながら、実行委員会においてこれまでさまざまな検討がされた結果、りんご灯まつりを8月9日と10日の2日間、そして祭りのファイナレを飾る花火大会を最終日の11日の日程で開催されている。りんご灯まつり並びに花火大会の日程については、それぞれの実行委員会において関係団体へのアンケート調査や意見交換会での意見を参考に決定している。また、祭りを尊重したい。

終了後に行った今年のアンケート調査においても、今回の日程がよかったという意見が多かったと聞いている。以前より見物客が少なくなつた理由については、日程以外にもいろいろあると思うが、より多くの町民の皆様に楽しんでもらえる祭りになるようにみんなで見守りを出し合い、工夫を凝らしながら町民に愛される祭りとしてしっかり育てていかねければならないと考えている。



燃ゆる板柳  
永く愛される祭りにしたい！





三戸 玲子

## 資源ごみのリサイクル

**問** 先日新聞紙上で県内の平成27年度の資源ごみのリサイクル率が報告され、当町は県内でワーストである。その理由は。

**答** (成田町長)

今回発表されたリサイクル率については、町で回収したごみの総重量に含まれる資源ごみの割合である。要因はいろいろあると思うが、地元スーパーによるペットボトルや空き缶、古雑誌等の無料回収が始まり、資源ごみの量が減ったことなどが考えられる。各小学校のPTAが行っている廃品の回収はリサイクル率には反映されず、この量は町が1年間に回収する資源ごみの量に匹敵するという報告があり、町全体のリサイクル

率は決して低い水準ではないと考えている。今後毎戸チラシや広報紙などを通じてごみの減量化、リサイクルに対する意識の高揚を図りたい。

**問**

(青山町民生課長)

他市町村でも廃品回収は行われている。もっと他に原因があると思うが。

**答** PTA等が集めた資源ごみは、回収にかかる物品の貸出、補助金交付などで町が関与していれば、町が回収したごみにカウントすることができるとしている。他の市町村ではそのような対策をしており、当町ではしていないため差が出ている。

**問**

(青山町民生課長)

町では板柳町廃棄物減量等推進審議会を設け、リサイクル推進を図ることとしている。この審議会の活動は現在どのような状況なのか。

**答**

(青山町民生課長)

任期が2年で、現在の委員は平成30年の1月30日まで、11名の方で構成されている。定期的な活動は少なく、必要な事態が生じれば、その都度委員会を開くことになっている。

**問**

現在の状況になってからは開いているのか。

**答**

(青山町民生課長)

開いていない。  
○要望  
このような事態を委員に報告し、現状を改善してほしい。

## 板柳中学校の冬期バス送迎

**問**

現在中学校は、統合以来50年が過ぎ、子供の数も随分少なくなった。1町1校としてスタートした中学校、冬期間のバス運行は、この間どのような変化があったのか。

**答**

(木村教育長)

通学距離が3キロ離れた地区の生徒に対して、11月から翌年3月までの冬期間において通学バス等を送迎を行っている。沿川地区の生徒に対しては、スクールバスを運行し、掛落林・小幡地区、飯田・横沢地区、柏木・牡丹森地区については、通学に利用するバス等を運行させるための経費に對して補助金を交付している。統合当初は約1,400人であった全校生徒の数

## 後期高齢者医療制度

**問**

後期高齢者の予算は約1億3,500万円

で推移しているが、現在対象者は何人で、また、負担割合の区分と、その内訳はどのようになっているのか。

**答**

(成田町長)

後期高齢者医療制度は、生活保護受給者以外の75歳以上の方が加入する制度であるが、65歳から74歳で一定の障害のある方も対象となる。当町の被保険者は、今年4月1日現在で約2,600人で、そのうち障害認定の方は約100人と

**問**

は。

滞納者はいるのか。いる場合、そのペナルティー

**答**

(大井健康推進課長)

平成28年度末で保険料の滞納者は16名いる。保険証の更新が2年ごとであるので、2年以内に納めていない場合は短期証の交付を行っている。



今 浩 一

過疎地域指定以後の方針・取組

問

現在当町では、「板柳町長期振興計画（第5次）りんごの里」プラン2020」を遂行している。また、

国の方針であった地方創生に伴い、まち・ひと・しごと創生総合戦略も遂行している。どちらも町の発展、活性に向けての取組だと思いが、これに反して当町は過疎地域指定を受けるといふ状況にある。これは、それらがうまく機能していないためか、それともある程度想定内のことか。また、過疎地域指定を受けた当町の今後についての考えは。

答

（成田町長）

過疎地域になったことでまちづくりの方針が大きく変わることはない。町の

課題に対する各種の取組をしつかりと進めなければならない。各事業では、過疎対策支援等を活用し、事業効果を最大限発揮できるように鋭意取り組みたい。

問

〈プラン2020〉について、町長が就任以来いろいろやってきた中で、その達成度はどのくらいだと考えているか。

答

（成田町長）

達成度としては明快に答弁することができないが、長期振興計画に沿って各種事業を実施し、一生懸命努力しているところである。

問

政策について変化はないとのことだが、今後小さくなっていく板柳はしよがないという意味で対策しないのか、それとも今のまま続けるといずれはよくなるという考えなのか。

答

（成田町長）

これまで大きな事業を実施するには財源の確保がネックで、容易にできなかったが、過疎債等のメリットを活用することで、計画的に実施できる。また、最重要課題として取り組んでいる人口減少対策がある。こうしたソフト事業に対して

も対象になるので、町全体の事業に対して効果が期待されている。今後のまちづくりに過疎債を利用していくことによって弾みがつくと考えている。

問

過疎債を使うということであれば、何かチームをつくってでも本格的に対策を考える必要があるのでは。町長、副町長、町職員、さらには議員、町民一丸となつて何か行う必要があると思うが、町長の考えは。

答

（成田町長）

地域の活性化を図るため、ふるさとセンターの機能強化計画を内部で進めている。副町長を座長とし、役場若手職員で戦略会議を作った。ふるさとセンターにいかにも多くの人を呼び込むか、交流人口をふやして定住人口につなげていくかということ、検討させている。また弘前大学と包括連携協定を締結している。町が持っている資源を活用して、大学の知識や経験、情報等を融合させて、町の活性化につなげたい。

問

豊かで活気のある、りんごの町板柳として盛り上げていくのは、やはり

町のトップである町長の考え一つだと思つ。課長初め、職員の方々も現状の業務だけではなく、新しいことを考えて、さらに仕事が増えるのは大変なことだと思つが、今それをやらないと、このまま板柳は縮小していくと思う。町長には思い切つて、今以上の取組をお願いしたい。最後に、町長の取組への決意を伺いたい。

答

（成田町長）

町では抱えている課題がたくさんある。総合的に進め人口減少に少しでも歯止めをかけていくことにより、地域の活性化につながっていくと考えている。私の考えは、最終的に町民一人一人がこの町に住んでよかったと思える、実感できるまちづくりを目指している。そのためにも議会の支援をいただきながら頑張りたい。

板柳町長期振興計画とは…

板柳町における総合的、計画的な行政の運営を図るための基本構想。各分野の実施計画はこれに即して行われる。

平成23～32年度までの計画である〈プラン2020〉では「日本一のりんごの里づくり」を全体目標とし、福祉、産業、環境など各分野の基本計画が明示されている。





成田 陽光

## 治水

**問** 岩木川の氾濫と並んで問題になるのが、生活排水路や農業用水路の小規模な浸水である。これらの排水路は、雨水の排水の役割も担っていて、当町においても8月24日の豪雨の際には何件か浸水の話をしている。また、小屋の床下の浸水直前まで水が来ているという事例も聞いている。

3時間で50ミリ程の雨が降ったということで、短期間の集中豪雨で排水能力を超えていることが一因と考えられる。こういった箇所は、当町において集中豪雨の発生する数年に1回程度の周期で発生していると思われる。水が床下に迫ってくる、水が道路にあふれているなどということは住民から聞いていると思うが、

町として被害状況の把握はしているのか、またその対策は。

**答**

(成田町長)

被害箇所の把握については、牡丹森や石野地区の集落内の排水路のほか、文京町の公民館向かいの住宅地の排水路や大蔵町の船岡公園付近のアップルモールの遊歩道などが数年に1度、短時間の集中豪雨、いわゆるゲリラ豪雨で排水路があふれ、宅地や付近の道路が浸水するなどの被害が発生している。その対策であるが、地区の消防団が排水ポンプにより水防活動で対応している。また、牡丹森、文京町地区については、町内会の側溝清掃と並行して、町では道路の横断部やコンクリートますなど、土砂の堆積している箇所をバキュームにより取り除き、通水の確保に努めている。また、石野地区については、本年度町内会とも協議をして、排水側溝をかさ上げし、宅地への浸水対策を講じた。また、船岡公園付近のアップルモールの遊歩道については、隣接の足水川の水位が上昇したとき、アップル

モールに逆流し、遊歩道が浸水しているものであるが、今後どういった措置ができるのか検討していきたい。今後も町内会と協議しながら対策を講じていくが、流末が土地改良区の排水路になっているところについては、関係機関とも連携して対応したい。

**問** 場当たり的な緊急対処ではなく、恒常的な対策はあるのか。

**答** (村上地域整備課長)

既に牡丹森、文京町地区も排水側溝の整備がされているので、工事については特段予定していない。バキューム等で通水を確保して日々災害に備えたい。

**問** 例えば水揚げのポンプをつけるという対策は可能か。

**答** (村上地域整備課長)

生活排水路の付近に土地改良区の用水路等もある場合、排水路の水位が上がったときに、用水路にポンプアップすることは有効な場合もある。用水路へのポンプアップとなると、関係の土地改良区とも協議しなければならぬ。

**問** 大蔵町地区の対策にはどのような状況か。

**答**

(村上地域整備課長)

アップルモールの遊歩道の浸水であり、並行している足水川の水位が上がったときに逆流して、遊歩道が浸水するという現象である。今後その逆流防止のための措置を研究したい。

## 土地改良

**問** 水田においては、農地整備が進んでいるか否かでその生産能力にかなりの差が生じている。また、昨今話題の水田の耕作放棄地は、未整備地区、もしくは古い時代の整備地区が主に進行していると思われる。水田のダム機能が注目されたのは、今日に始まったことではないが、耕作放棄地の拡大は治水の観点からも看過していいものではない。整備の実施主体は町ではないが、実施となると国や県と並んで町も予算をつける必要が生じ、何より土地改良区がない地区の住民になれば、町が実質的に主導的な立場になるという場合も考えられる。そこで、現在

深味地区と三千石地区における事業実施の動向が聞かえてきているが、その状況について把握している内容は。

**答**

(成田町長)

深味地区については、所管の浅瀬石川土地改良区が主体となり、平成28年8月に関係集落の代表を対象に説明会を開催し、その後受益者を対象に地元説明会を開催している。9月中には調査計画に必要な90%以上の同意徴収を行い、平成30年度の調査計画に向け要望申請する予定と聞いている。三千石については、土地改良区がないので、受益者の代表が主体となり、平成28年9月に受益者を対象に地元説明会を開催し、今後受益者の話し合いを開始すると聞いている。町のサポート体制については、地域の合意形成に必要な制度の情報、あるいは関係機関との調整など引き続き支援したいと考えている。

○要望

土地改良区の有無で、進捗のスピードが違う。引き続き町としてサポートを要望する。



松森 俊逸

国保一元化

問 国民健康保険は平成30年度から県が保険者に加わり財政運営の責任主体となり、安定的かつ効率的な事業の確保等中心的な役割を担い、町は引き続き資格管理、保険給付、保険料の決定、保健事業等、地域におけるきめ細かい事業を担うことになる。平成28年4月に国から納付金算定方法や国保運営方針策定のガイドラインが示されたが、町の納付金、町民生活に直結する保険税ほどの程度になるのか。また、納付金や標準保険料率の算定作業の進捗状況は。

答 (成田町長)

県と共同で算定作業が行われている。今後、公費を含めた試算で納付金額が公表される予定で、最終確

定は年末の予算編成時期になると考えている。

常盤町踏切拡幅

問 町は県所管のインフラ整備について優先順位を決めながら複数箇所を一括で要望しているが、常盤町踏切の拡幅の優先度は。また、踏切前後の県道拡幅事業は339号バイパスに接する一部の歩道が整備されただけで後の進捗が見られないが何か障害でもあるのか。

答 (成田町長)

交通安全対策事業や舗装道維持修繕事業など、さまざま要望しているが、踏切拡幅については優先度は高いと考えている。県は道路詳細設計業務が実施したが、用地取得の問題等により、事業化されなかった。

問 県への要望総数のうち、優先度は何番目か。

答 (村上地域整備課長)

交通安全対策事業や舗装道維持修繕事業など25件要望している。踏切拡幅事業は、交通安全対策事業で要望順位1番で要望している。

問 地権者の同意が得られなかった場合、県はこの事業の進捗を図るといふ感触はあるのか。

答 (成田町長)

昨年の要望時では、県からは、地元の合意形成、地権者の協力体制が大変大事だと言われている。こうした環境、条件が整うことが事業の進捗につながるものと受けとめた。

介護保険料

問 町民から介護保険料が高額であると言われるが、介護保険の基準額(月額5,400円)はどのようにならされているのか。

答 (成田町長)

基準額算定については、給付データ及び要介護等認定者数をもとに、国から示されたワークシートを用いて、給付費見込額を算出している。ここから、調整交付金等を控除、必要な収納保険料を算出し、これを被保険者1人当たり換算している。また、介護保険料は、本人と世帯の課税状況や所得に応じて基準月額に9段階の保険料率を乗じて決定

している。当町の基準月額額は、県内で4番目に低い水準である。

中学校建設における過疎債利用

問 中学校建設事業が総工費13億円、延床面積4,200㎡、4,500㎡という計画に基づき現在実施設計が進んでいると思われるが、補助基準単価に面積を乗じた額が13億円であるのか。現校舍解体費用や新築に係る備品等ほどの程度の費用を要するのか。また、過疎債利用による自主財源のメリットはどの程度か。

答 (木村教育長)

基本実施設計業務の委託業者選定の際に想定した延床面積及び総工費の概算額で、国の補助基準単価に面積を乗じたものでない。現在は学校等の要望を受け、延床面積が5,800㎡、厨房機器及び外構工事を合わせた概算工事費として約19億円を見込んでいる。解体費については既存校舍解体費を約2億9千万円と想定し、パソコン等の機器や机、椅子の備品等が約1億

4千万円を見込んでいる。(成田町長)

中学校の制服等販売方法

問 中学生の制服や運動着の購入について購入先が限られ不便を感じているとの指摘があり、調査したところ町内販売店が極端に少ないことが判明した。以前から制服等を取り扱いたいと思っていたが方法が不明だと言う店主もいた。父兄の利便性向上や商店活性化のために町内店の新規参入を考えられないか。

答 (木村教育長)

制服や運動着等は、入学時の手続の際に集中受付により発注をしている。しかし、常時購入が可能となる業者が必要なことから、現在町内では1店舗が取扱販売店となっている。保護者から町内販売店が極端に少なく、不便を感じているということと、新規参入したい業者がいることなどを中学校側に報告したい。

# 決算特別委員会 総括質疑

平成28年度の各会計決算を審議するため、議員全員で構成する決算特別委員会（委員長・成田肇議員／副委員長・葛西幸男議員）を設置し、9月8日・11日の2日間にわたり詳細に審議しました。

数多くの質疑がありましたが、その一部を紹介します。

※平成28年度各会計決算の詳細については、広報いたやなぎ10月号に掲載されています。

## ◎あぶる利用状況

**今浩一委員**…多目的ホールあぶるの使用料が昨年度収入約268万で、前年度比80万円の減収である。この現状について、町長の考えは。

**成田町長**…立派な施設なので、各団体、町主催の催しにできるだけ使用する。町民の方々にもぜひ利用促進のPRをしたい。

**今浩一委員**…昨年度、結婚式を挙げた人が1組というのを聞いた。最近結婚式を挙げない方もかなりたくさんいると思う。使われていない日が多いのであれば、例えば使用料を見直したり、近隣の他町村の方々にも使ってもらえるような工夫が必要では。

**成田町長**…使用料が高くてこのような状況であるのが調べてみる必要がある。

**今浩一委員**…たばこを吸えなくなったのが宴会等で使わなくなった理由ではないか。値段だけの問題ではないと思う。様々な条件を加味して、使いやすいうように最善の工夫をしてほしい。

## ◎公共施設耐震

**三戸玲子委員**…福祉センターの利用を止めているが、今後はどのようになるのか。

**成田町長**…現状のままでは使えるように直すと、総額3億円かかる。これまでの使用状況を考えると、それだけの経費をかけることが町としていいのか、または多目的ホールあぶるがあるので、そちらを有効活用したほうがいいのか、考えているところである。

**三戸玲子委員**…庁舎の耐震工事も行っていない。地震から機械や重要書類は守られるとのことだが、職員も大事な町の財産。新築ではなくても、せめて役場の耐震補強は行うべきでは。

**成田町長**…新しい庁舎を建てれば、全ての問題が解消されること、49年度に竣工しても大分古いこともわかる。しかしその時代に建てた公共施設が他にも多く、そのなかで考えなければならぬことが多い。

## ◎空き家問題

**佐藤洋治委員**…空き家の総数は把握されているのか。また、広域の空き家バンクへの対応はどうするのか。

**村上地域整備課長**…空き家の総数は、総務省の平成25年度住宅土地統計調査によると620戸である。

**村上企画財政課長**…弘前圏域定住自立圏で行う空き家バンクであるが、弘前市

# 常任委員会 審査

## 総務産業厚生 常任委員会

### ■収入保険制度

◎米の直接支払が今年で終わって、来年から収入保険制度に変わるが、窓口は農業共済組合になるのか。

Ⓐ収入保険制度に関しては、今のところ共済が窓口になるということである。

◎農家は不安に思っているのではないかと。説明会という形でも、何か啓蒙活動が必要では。

Ⓐ収入保険制度に関しては、春から状況は変わっていない。今後細かい制度の内容が出てくるかと思う。それが11月ころではないかと聞いている。今までも啓蒙活動はチラシ、また、農業共済組合においてもチラシを配布していると思うが、情報が入り次第、またお知らせ

せしていきたい。

### ◆陳情

「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について 採択

## 福祉建設文教 常任委員会

### ■町民体育館設備

◎町民体育館に設置するバスケットゴールは、ミニバスケットも使えるバスケットゴールに取りかえるのか、それとも一般の人しか使えないゴールか。現状のものはミニバスケット対応になっていない。

Ⓐミニバスケットのことまでは想定していない。

◎アタッチメントだけで上げ下げできる。コートの大さきの関係で、今のバスケットゴールだけでは試合できないため、新しくするのであれば、ミニバスケット対応のバスケットゴールに交換してほしい。

Ⓐ予算の範囲内のできるものかどうか、できるのであれば対応のものということに検討したい。



民のために運営されている弘前市の空き家・空き地バンクを圏域全体の範囲に拡大して、圏域の8市町村全体で取り組んでいくもの。この後議会の議決を経て、協定の変更を締結する。今年度末までに空き家・空き地バンクの協議会を立ち上げ、来年度から空き家バンクのホームページの改修などを行い、実際に運用という流れになる。

**佐藤洋治委員**…620戸も空き家があると、その中で持ち主と連絡がとれない事例もあるのか。

**村上地域整備課長**…所有者の所在は調査しておらず、把握していない。

**佐藤洋治委員**…税金の滞納額は一般会計のなかでは固定資産税が一番高い。今年も全体で一般会計だけで1,300万の不納欠損、そのうち固定資産が1,200万である。去年よりも200万多く不納欠損しているが、何件、何人分になるのか。今弘前がトップになって、広域で空き家バンクで少しでも空き家をなくす取組があるとのことだが、当町も独自の努力をこれからしていかなければならないのではないか。

**成田町長**…先ほど企画財政課長が説明した、弘前を中心とした圏域でバンクを

設置する事例では、かなりの実績、結果が出ている。まずは、このバンクを利用し、さらに町として他の方法も研究したい。

**田邊税務会計課長**…固定資産の不納欠損の件数は105件である。

### ◎還付加算金

**葛西清人委員**…過誤納税還付金及び還付加算金が約127万円とあるが、この内容は。

**田邊税務会計課長**…固定資産税、個人町民税などの申告において、過年度等の還付金が発生した際、過誤納税還付金及び還付加算金

というところで支出している。葛西清人委員…間違いが起きないように、しっかり精査して切符を出してほしい。

**久米田亥佐雄委員**…ほのぼのコミュニティの内容は。

### ◎ほのぼのコミュニティ

**青田介護福祉課長**…ほのぼのコミュニティ21推進実

施事業については、高齢者の見守り活動の事業になっている。見守りネットワーク

コーデイネーターの設置、ほのぼの交流員を設置し、

ほのぼの交流員が交流する事業、見守り活動連絡隊と地域包括支援センターを初

めとする関係機関が連携して、地域の課題や情報共有などを実施している。

**久米田亥佐雄委員**…これは各町内ごとでやっているか、それとも町全体でやっているのか。

**青田介護福祉課長**…社会福祉協議会に委託して実施している。

### ◎放任園対策

**長内良蔵委員**…りんご放任園処理対策事業で95万円支出しているが、件数と面積はどれだけ作業したのか。

**田沢産業振興課長**…昨年の実績は3地区で、処理面積が約2万m<sup>2</sup>である。

**長内良蔵委員**…面積が年々多くなり、カメムシ、アラ

イグマ、黒星病などの発生源となっている。早目に面積を把握して、何かの形で平地にするなど、その対策をとってほしい。

**成田町長**…これまでも農地パトロールを行っているが、さらに回数をふやすなどして、実態を把握し、その対策について関係機関と協議しながら進めたい。



地元農家による放任園処理事業

## 議会を傍聴しませんか

次の定例会は12月です

<議会日程のお知らせ(予定)>

※開催時間はいずれも午前10時です。

月日		内 容
12月1日(金)	本会議	特別委員会報告等、提案理由の説明
12月6日(水)	本会議	一般質問
12月7日(木)	常任委員会	総務産業厚生・福祉建設文教
12月8日(金)	本会議	委員長報告等、質疑、討論、採決

傍聴者名簿に住所、氏名、年齢を記入していただければ、どなたでも本会議を傍聴することができます。なお、傍聴できる人数は51人となっております。



## ようこそ議会へ!

板柳高校生が、職業体験学習の一環で、一般質問を傍聴しました。



板柳高校 2年2組 川村彩百合さん

今回初めて議場の中に入りました。

議員や町長の話から、とても町のことを考えているのが伝わってきました。

今回の傍聴では、特に町のリサイクル問題が印象的です。議会で意見交換をする大切さについて知ることができました。

さらによりよい町にするために、今後がんばってください!

# 視察・研修レポート

## 総務産業厚生常任委員会

### 視察研修

7月10日から12日までの3日間の日程で視察研修を行いました。参加委員は、佐藤洋治副委員長、北畠弘美委員、葛西幸男委員、成田陽光委員、私、委員長、三戸玲子で、随伴職員は對馬事務局長でした。

1日目は、岐阜県郡上市八幡町まで飛行機、バス、鉄道など、6回も乗りかえ到着、郡上八幡博覧館、郡上八幡城など、市内を視察しました。

2日目は、道の駅明宝において、明宝第三セクターによる地域おこしの概要について説明を受けました。女性が起業したトマトケチャップやトマトジャムを製造している株式会社明宝レディース、ハム、ソーセージ類を製造している明宝特産物加工株式会社、それと明宝温泉湯星館では間伐材のまきを使った木質バイオマスボイラーセンターを視察研修しました。地域の雇用に貢献しており、

経営を社員に任せるとして柔軟な経営が行われ、民間企業の発想や事業家意識が芽生えたそうです。特筆すべき点は明宝地域の7つの自治会が一般社団法人明宝という法人をつくって出資し、運営に参与していること。その利益が集会所、公民館などの維持管理に役立てられていることです。さらに、民間主導の地域づくりということ

で、NPO法人ななしんほという夢を持ち寄り、夢を語り合うための組織が設立されています。ななしんぼとは、愚か者の意味で、話し合いのルールは否定しないこと、できないと言わないことだそうです。

3日目は、東京都永田町の議員会館を訪れました。津島淳衆議院議員本人と故木村太郎衆議院議員の秘書に、岩木川中流部飯田、板柳地区の冠水対策を要望してきました。

(委員長 三戸 玲子)

## 福祉建設文教常任委員会

### 視察研修

8月23日から25日までの日程で、福祉建設文教常任委員会による視察研修を石川県白山市を中心に行いました。

初日は、移動日となり、途中福井県永平寺を訪れ心を静め、2日目に備え白山市へと向かいました。

2日目は、白山市役所に、健康寿命延伸のまちづくり事業についての研修を行いました。この事業は、白山市が健康計測機器メーカータニタと連携して行っている健康づくり事業の一環で、健康を見える化することで楽しい健康づくりを目的に行っている事業です。短命県青森の中でも当町はワーストなときがありました。さまざまに取り組みで改善に向かっていく町として、さらなる向上を目指す参考にすることも、この研修は充実した研修でありました。

その後、世界遺産で有名な白川郷へと足を運びま

した。特に驚いたことは、家の前や農作業小屋の前にある農耕機、重機にたくさん外国人が集まり、一緒に写真を撮っていることでした。当町でもまだ気づかないよきものがあるのではないかと、文化の違いを感じた瞬間でした。

3日目は、松井秀喜記念館を訪れました。当町でも、スポーツの世界で活躍を目指す子供たちがたくさんいます。そんな子供たちに少しでも世界に通用した人の思い、努力を伝えることができればと思います。当町出身、陸上の福士加代子選手、大相撲の振分親方の人並み以上の努力を思い浮かべ、帰路につきました。今回の研修は参加した人は、副委員長、長内良蔵、葛西清人委員、成田肇委員、久米田玄佐雄委員、事務局1名、私、委員長、今浩一の6名が参加しました。

(委員長 今 浩一)

# いたやなぎ町議会だより編集特別委員会

## 町村議会広報研修会

昨今、議会活動に対する住民の関心と理解を深めるための広報紙づくりが求められています。この実現のため、東京都千代田区「シエーンバツハ・サポー」において、議会広報実務担当者を対象に、研修会が開催されました。当委員会からは、今浩一副委員長、長内良蔵委員、葛西幸男委員、私、委員長の成田陽光、事務局田中主査が参加しました。

最初の科目は『伝える広報』から『伝わる広報』へです。株式会社ことのは本舗代表取締役の小田順子氏が講師を務めました。講義では、文章の構造に着目し、見やすく読みやすい広報を作るテクニックを学びました。

次の科目は議会広報の電子化によるメリットを説いた、日本広報協会広報アドバイザーの吉村潔氏によるものです。情報を得る手段がインターネット、その

利用方法としてスマートフォンが普及し、議会広報もその波に乗る必要性を感じました。特に先進的だと感じた取組は、広報紙とインターネットのつながりです。一般質問の様子を動画撮影しておき、それをホームページに公開します。そして、広報紙はその内容を完結に掲載、QRコードを添えます。それをスマホで読み取ると、動画がすぐ視聴でき、議論の詳細がわかる、という仕組みです。会場内に専用の機材等が必要ですが、理想的な取組だと思えます。

最後は恒例である、全国コンクール優秀紙を題材にした講義です。驚くこ

とに、町の広報紙よりもページ数が多く、予算等詳細にわたって掲載しており、30ページ前後の贅沢な広報紙でした。そのような取組を今すぐに行うことは難しいのですが、出来ることは少しずつでも取り入れ、親しみの持てる広報作りを努力したいです。

また、二日目は東奥日報社東京支社を敬訪問しました。編集部長白取心平氏との懇談では、東京での取材活動から見えた政治の状況等を詳しく解説していただきました。衆議院解散の翌日でもあり、大変貴重なお話を聞くことが出来ました。

(委員長 成田 陽光)



会場入り口にて

### 議会の動き (7月～9月)

開催日	会議等名
7月 7日	議会だより編集特別委員会
7月 //	町例月出納検査(監査) 北島議員
7月 10日	総務産業厚生常任委員会視察研修(~7/12)
7月 18日	議会だより編集特別委員会
7月 20日	県下町村議会議員研修会 9人
7月 24日	議会運営委員会 (定例会案件)
7月 27日	議会だより編集特別委員会
8月 3日	議員全員協議会 (町諸案件等)
8月 7日	町例月出納検査(監査) 北島議員
8月 15日	議員全員協議会 (町諸案件等)
8月 23日	福祉建設文教常任委員会視察研修(~8/25)
8月 29日	議会運営委員会 (定例会案件)

開催日	会議等名
9月 4日	議員全員協議会(定例会案件)
9月 //	本会議(定例会日程、町長の提案理由等)
9月 6日	本会議(一般質問・6人)
9月 7日	総務産業厚生常任委員会(所管事務調査)
9月 //	福祉建設文教常任委員会(所管事務調査)
9月 8日	決算特別委員会
9月 11日	決算特別委員会
9月 12日	本会議(委員長報告、採決、閉会)
9月 13日	町例月出納検査(監査) 北島議員

表紙について一言。

下常海橋八幡宮にある  
おらほイチの自慢のイチョウの木。幹回り4m40cm、  
高さおよそ28m、地上1  
m20cmの所に横80cm縦60  
cmの大きなこぶができてい  
ます。

この神社は寛永二年（1  
625年）に蒔苗市兵衛  
という方が建立したそうで  
す。

イチョウの木はその後植  
えたものでしょう。

町民の皆さま、一度ご覧  
に来てはいかがでしょうか。

今後も編集委員として  
活動してまいります。

（委員 久米田 亥佐雄）

【発行責任者】

議長 葛 西 清 人

※第16号発行予定は2月  
9日頃です。  
議会だよりへのご意見・  
ご感想をお聞かせくださ  
い。

# 一目で分かる審議結果

## ◆第7回定例会

### ○全会一致の議案

議 案	結 果
板柳町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	全員同意
人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	全員可決
弘前圏域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定の締結について	全員可決
板柳町過疎地域自立促進計画の策定について	全員可決
板柳町介護保険条例の一部改正について	全員可決
板柳町工場等設置奨励条例の一部改正について	全員可決
平成28年度板柳町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について	全員可決
平成29年度補正予算（板柳町一般会計他4件）	全員可決
平成28年度各会計決算の認定	全員認定
平成28年度板柳町健全化判断比率の報告について	
平成28年度資金不足比率の報告について	
一般財団法人板柳町産業振興公社りんごワーク研究所経営状況の報告について	
「全国森林環境税」の創設に関する意見書	全員可決

### ○賛否の分かれた議案

議 案	氏 名										結 果
	久米田 亥佐雄	成田 陽光	松森 俊逸	今 浩一	葛西 幸男	長内 良蔵	佐藤 洋治	成田 肇	三戸 玲子	北畠 弘美	
松森俊逸議員に対する 議員辞職勧告決議	○	×	除	×	○	○	△	×	△	×	賛成3人 否決

○：賛成、×：反対、△：退席、除：除斥（直接の利害関係のある事件については、その議事に  
参与することができない。（地方自治法第117条））※議長は採決に加わらない。